

小平市立図書館 50年の歴史

- 昭和 39 年 5 月 中央公民館内に図書室が開室(仲町)
- 昭和 43 年 4 月 公民館 2 号館に公民館青年の図書室開設
- 昭和 47 年 4 月 福祉会館 2 階に図書室開設
- 昭和 48 年 7 月 社会教育委員の会議が図書館開設の答申
- 10 月 小平市長期総合計画実施計画(昭和 49 年~51 年)に
図書館建設を盛り込む
- 昭和 49 年 4 月 教育委員会社会教育課内に図書館準備室開室
- 8 月 仲町(中央公民館 3 号館跡地・現仲町図書館)に小平市図書館着工
- 10 月 萩山公園管理事務所に図書館準備室移転 蔵書の整理と電算化の検討開始
- 昭和 50 年 5 月 小平市図書館開館(現在の仲町図書館の位置)
- 7 月 地区公民館図書室を閉室し、小川公民館内に小川分室、花小金井北公民館内に花小金井北分室を開室
- 昭和 51 年 5 月 小川上地区公民館(現・上宿公民館)内に小川上分室を開室
- 昭和 53 年 4 月 上水南地区公民館(現・上水南公民館)内に上水南分室を開室
- 昭和 54 年 4 月 花小金井図書館が開館
- 昭和 55 年 7 月 小川西町図書館開館
- 昭和 56 年 6 月 喜平図書館開館
- 昭和 57 年 5 月 上宿公民館内の小川上分室を閉室
- 6 月 上宿図書館開館
- 昭和 60 年 7 月 中央図書館開館(旧市庁舎跡地に建設)、小平市図書館を仲町図書館に改名
- 昭和 62 年 7 月 津田図書館開館
- 平成 3 年 10 月 北多摩六市の図書館の相互利用開始
- 平成 8 年 12 月 公民館移転に伴う小川分室移転開室
- 平成 13 年 1 月 大沼図書館開館
- 平成 17 年 3 月 第 1 次小平市子ども読書活動推進計画策定(平成 22 年度~第 2 次計画、平成 27 年度~第 3 次計画、令和 2 年度~第 4 次計画)
- 平成 18 年 5 月 花小金井図書館移転開館
- 平成 25 年 11 月 国分寺市の図書館と相互利用開始
- 平成 27 年 3 月 仲町図書館(なかまちテラス)リニューアル開館
- 平成 31 年 2 月 立川市の図書館と相互利用開始
- 令和 5 年 5 月 小金井市及び東大和市の図書館と相互利用開始
- 令和 7 年 小平市立図書館開館 50 周年
- 令和 8 年 小川駅西口に小川西町図書館移転開館予定(指定管理者による運営を予定)



公民館図書室風景(昭和 40 年)



福祉会館図書室風景(昭和 47 年)

50年

小平市立図書館の8館3分室のネットワーク

小平市では15分も歩けば図書館に行くことができるよう、市内に地区図書館や分室を整備してきました。



電子地形図（国土地理院）を加工して作成

各図書館の特徴

図書館名	設備	特徴
中央図書館	 	中央図書館は、昭和60年(1985)に開館し、まもなく開館40周年を迎えます。小平市の図書館の中心館として、7つの地区図書館と3つの分室の図書館サービスを支えています。また、中央図書館のマークは知の象徴である「ふくろう」です。中央図書館は、地上3階、地下1階で約4,700㎡の広さがあります。 明るく広い1階は、総合カウンターで利用者登録・リクエストの受付、図書の検索や貸出・返却などを行っています。一般書や児童書のコーナー、雑誌や新聞があるブラウジングコーナー、DVDなどの試聴コーナーがあります。CD、カセットは貸出ができません。2階には参考図書室や読書室、おはなし室、3階には講演会などが開催される視聴覚室があります。
仲町図書館	  	仲町図書館は、昭和50年(1975)5月18日に市内で最初の小平市図書館として開館しました。昭和60年(1985)に中央図書館が開館したことに伴い、名称を仲町図書館に変更しました。平成27年(2015)3月14日に仲町公民館との複合施設としてリニューアルオープンしました。所蔵資料にICタグを貼付しており、自動貸出機による資料の貸出や盗難防止ゲートを設置しているほか、貸出口ッカーを設置して閉館時でも予約資料の受け取りができます。学校図書館との連携推進館として、学校図書館の支援体制の充実を図っています。
花小金井図書館		花小金井図書館は、昭和54年(1979)4月1日に開館し、花小金井駅北口都市基盤整備事業により平成18年5月8日に現在地にリニューアルオープンしました。花小金井図書館が入っている東部市民センターは、東部出張所と集会室、図書館の複合施設で、図書館は建物の2・3階にあります。2階のテラスに設けた読書スペースでは、自然の中で読書が楽しめるほか、おはなし会が行われない日は、おはなし室を読書室として開放しています。近年は周辺人口の増加と駅前への利用しやすい立地条件もあり、中央図書館に迫る利用があります。
小川西町図書館		小川西町図書館は、昭和55年(1980)7月1日に開館しました。ハンディキャップサービスの中心館として、図書館利用に障がいのある利用者に対してデイジー図書等の貸出に力を入れています。小川西町図書館が入っている西部市民センターは、西部出張所と公民館、図書館の複合施設で、図書館は建物の2階にあります。 令和8年度には小川駅西口新公共施設に移転する予定です。
喜平図書館		喜平図書館は、昭和56年(1981)6月27日に開館しました。小平団地の東南の角にあり、明るい環境の中で地域の方が気軽に利用できる図書館です。2階建ての建物で図書館は1階、2階には集会室があります。 喜平図書館では、郷土写真資料の収集保存事業を昭和56年度から実施しています。昭和初期からのテーマ別写真及び飯山達雄氏等から寄贈された昭和30年代の写真などを保存しています。これらは、学校の周年記念誌や市内施設における展示などに利用されています。また、小・中学校用教科書を展示し、貸出・閲覧を行っています。
上宿図書館		上宿図書館は、昭和57年(1982)6月26日に開館しました。小平市の西端に位置し、自然環境に恵まれ、地域の方が気軽に利用できる地区図書館です。平成28年2月からは太陽光発電設備を設置し、温室効果ガス削減を目指しています。 平成16年度から小平市に関する新聞記事で小平市に関する記事を切り抜いて、整理・保存しています。記事索引の作成も併せて行い、ホームページ上の新聞記事検索データベースで公開しています。
津田図書館		津田図書館は、昭和62年(1987)7月4日に都営津田町三丁目アパート地内に公民館と共に開館しました。近くには、せせらぎのある緑豊かな玉川上水があり、自然に恵まれた環境の中で、地域の方が気軽に利用できる図書館です。 開館以来ポスター収集分館として、ポスター等の収集、展示を行っています。小平市内で発行されたもののほか、外部から送付された小平市の行政や市民生活に関係する資料を含め、組織的に収集・整理・保存しています。
大沼図書館		大沼図書館は、平成13年(2001)1月9日に都営大沼町一丁目アパート地内に公民館と共に開館しました。 大沼図書館では、小平市に在住している方々の著作物を収集し、利用に供しています。

小平市の図書館の特徴的な事業

小平市の図書館は、通常の貸出サービスやおはなし会などの児童サービス、レファレンスなどの他に、他市の図書館ではあまり見られない特徴的な事業も行って発展してきました。今後もこれらの事業を発展させ、市民に役立つ図書館として存在価値を高めてまいります。

古文書の収集・整理

昭和50年の図書館開館時から、古文書の収集や整理に取り組んでいます。目録を作成するとともに解題をつけて、古文書によって明らかになった歴史の解説を載せて、市民が地域の歴史への関心を深めるきっかけとしています。

小平市の古文書収集・整理は、全国から研究者が来訪するなど広く注目されています。

特定歴史公文書

小平市の図書館は令和4年10月に「小平市公文書等の管理に関する条例」が施行されたのに伴い、公文書館機能を併設するようになりました。

行政文書のうち、保存期間が満了した歴史的に貴重な文書の移管を受け、特定歴史公文書として永久保存するとともに、一般の利用に供しています。

地域資料の収集・整理

市民の郷土理解を深めるために、地域を知るための様々な資料や情報を収集し、必要に応じて目録等を整備してデータベース化・デジタル化等も検討して活用してきました。令和5年度末で地図や行政資料、古文書、郷土写真、地域のポスター・広告・チラシ・小平市関連の新聞記事などを43万点収集しています。

学校との連携

小平市の図書館では、平成18年度から市内の全中学校に、平成22年度から全小学校に、学校図書館協力員(現・学校司書)を配置し、学校図書館の運営を支援しています。

また、仲町図書館に配置されている学校図書館相談員が、学校図書館運営に関わる総合的な相談と業務支援のため、定期的に各学校を巡回しています。

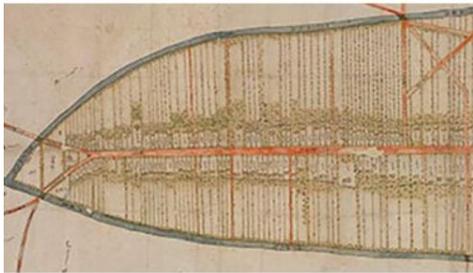
特徴的な事業からの発展 ～こだいらデジタルアーカイブの構築～

小平市の図書館では、これまでの古文書や地域資料の収集・整理や、市史編さんなどの取組などによる資料の蓄積をもとに、平成30年度から「こだいらデジタルアーカイブ」を構築してきました。現在「こだいらデジタルアーカイブ」には、小平市史、郷土写真、平櫛田中関連資料、新聞記事検索データベース、定点撮影写真の資料が掲載されていて、小平市立図書館のホームページからのリンクで誰でも閲覧することができます。

小平市史

小平市では市制施行50周年を記念事業として、小平の歴史を明らかにし、魅力ある郷土を後世に伝え、これからも住み・働き・学び・訪れたいまちとしての魅力づくりに努めることを基本理念に、平成20年10月から市史編さん事業を進めてきました。

「こだいらデジタルアーカイブ」では、フルテキストで公開、キーワードで検索して閲覧することもできます。



延宝2年頃「小川村地割図」—別冊「図録」掲載—

郷土写真

写真家 飯山達雄氏(1904-1993)が昭和24年から昭和31年までに撮影した小平市内の写真、約1500枚をご覧いただけます。

市になる以前の小平の様子がよくとらえられています。



平櫛田中関連資料

小平市立図書館では、晩年を小平市で過ごした彫刻家、平櫛田中が生前収集していた約1万5千点の書籍を「平櫛田中文庫」として、平成28年より公開しています。デジタルアーカイブでは、彫刻作品の3Dをはじめ代表的な作品、および「平櫛田中文庫」蔵書の一部を高精細画像で公開しています。



新聞記事検索データベース

明治33年から昭和37年の、朝日・読売・毎日(東京日日)新聞に掲載された小平市に関する記事及び図書館に関する記事をデータベース化したものです。

—明治33年～昭和37年—

新聞記事検索 データベース

検索方法

プルダウンから検索:各項目のプルダウンを選択し[絞り込み]のボタンを押すと、該当の新聞記事を一覧に表示します
キーワードを入力:検索したいワードを入力し[絞り込み]のボタンを押すと、その単語を含む新聞記事を一覧に表示します
リセット:絞って検索する場合は[リセット]ボタンを押してから検索を行ってください

分類: 紙面情報: 地理:
キーワード:

30件表示

前 1 2 3 4 5 ... 60 次

No	掲載日	抄録	紙面情報	分類	地理
1	明治33年6月9日	小平村字野中新田右衛門地先の樹木で6日に賞金のため船死するものあり。	読売/日刊/4 頁/4段	432頁	10小平
2	明治35年1月9日	小平村小川の農家の物置から7日役に出火し3棟を焼失した。	読売/日刊/4 頁/6段	436火災・ 罹災	10小平
3	明治35年8月26日	小平村字野中新田右衛門地24日に老人が疾病を病にして臥床で自殺した。	読売/日刊/4 頁/6段	432頁	10小平

定点撮影写真

昭和56年から小平市内の移り変わりが激しいと思われる街並み等について撮影位置(定点)を定め、同位置・同方向からその変化を記録しています。



「中央公民館前」の昭和56年(左)と
平成29年(右)の様子

なかまちテラス（仲町図書館）の新しい取組



仲町図書館は、公民館と図書館の機能を一体化した生涯学習施設、「なかまちテラス」として平成27年(2015)3月14日に開館しました。

なかまちテラスは、従来の公民館・図書館機能を超えて、地域の学びとつながりづくりの拠点となることで、生涯学習の振興や地域の活性化を目的としています。地域にとってより魅力的な施設にしていいため、なかまちテラスを核とした地域協働の場「なかまちテラス LiNKs」を立ち上げ、「みんなでつくる、みんなのなかまちテラス」を合言葉に活動しています。LiNKs（リンクス）とは Library（図書館）、i（私）、Nakamachi（仲町を中心とした地域の皆さん）、Kominkan（公民館）、School（学校）の頭文字をとって名づけられ、それらがつながっていくことを目指しています。

図書館と学校との連携

小平市立図書館では、仲町図書館を中心として、市内の公立小・中学校に対して、学校図書館の運営支援を行っています。

<図書館と学校との連携>

平成18年度より市内の全中学校(8校)に、平成22年度より全小学校(19校)に、学校図書館協力員(現・学校司書)を配置し、司書教諭や図書担当の教諭のもと、学校図書館の運営を支援しています。

学校司書に対しては、業務に関連する研修を図書館で実施するとともに、仲町図書館に配置されている学校図書館相談員が、学校図書館運営に関わる総合的な相談と業務支援のため、定期的に各学校を巡回しています。また、年に一回、指導課の主催により、小・中学校の司書教諭との連絡会議を開催し、各学校との意見・情報交換を行っています。

<調べ学習用図書の貸出>

市内の小・中学校の学習支援として、授業で使う調べ学習用の図書を貸出しています。学校の先生や学校司書から依頼を受け、担当の市立図書館の児童担当職員がテーマに沿った図書を集め、貸出を行います。

貸出された図書は、図書館と学校を結ぶ配送車で学校に届けられます。また、調べ学習用図書の貸出のほか、学級文庫用の図書の貸出も行っています。

このほかにも図書館では、児童の図書館見学の受入れ、夏休みおすすめ本リストの配布など、様々な面で学校と関わっています。今後もより一層図書館と学校との連携を図り、こどもたちの読書活動が活発となるよう相互に協力してまいります。

なかまちテラス（仲町図書館）の新しい取組（続）

ICタグ・自動貸出機

仲町図書館の蔵書にはICタグ入りのバーコードが貼付されており、利用者自身がプライバシーを保ちながら短時間で貸出の手続きを行うことができます。

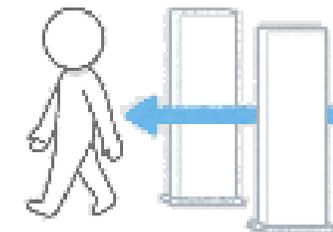
現在の仲町図書館の貸出の約半数が自動貸出機により行われています。



盗難防止ゲート

貸出未処理の本を持ち出そうとするとアラームが鳴ります。

貴重な図書館資料の盗難を防ぐとともに来館者数などのデータを取ることも可能となります。



Wi-Fi

小平市の公共施設で最も早く平成27年3月からWi-Fiを提供しています。館内資料での調べものと併せてスマートフォンやタブレット等を用いてデータ容量等を気にせずインターネットでの調べものを行うことが可能となり、図書館の利便性や滞在環境が一段と改善されました。最近、GIGAスクール端末を持ち込んで使用する児童・生徒も増えています。



貸出ロッカー

入口付近の建物外側に貸出ロッカーを10箱設置しています。

予約した図書館資料を閉館後や図書館休館日にも、受け取ることができます。



商用データベース

館内の専用PCでオンラインデータベースサービスを提供しています。新聞記事の検索・閲覧などができる「朝日新聞クロスサーチ」「ヨミダス（読売新聞社）」、「官報情報検索サービス」、法律・判例検索データベースの「D1-Law」の4つのデータベースを提供しています。



カフェ

1階にカフェがあります。コーヒーなどを飲みながら、図書館で借りた本を読むことができます。近年はカフェを併設する図書館が増えてきています。新しい小川西町図書館にも導入が予定されています。



なかまちテラス LiNKs の取組

地域の方や図書館・公民館・学校が一体となって活動し、広報誌の発行やなかまちテラスまつりなどの多様な事業が展開されています。

施設の特徴を生かしたイベント

施設の特徴を生かして、書架エリアでおはなし会や演奏会などを開催したり、壁面でイルミネーションを点灯したりするなど、ほかの図書館ではなかなか実施できないイベントを開催しています。

小川駅西口新公共施設に移転する小川西町図書館

令和8年度には小川駅西口新公共施設に小川西町図書館が移転する予定です。

新しい公共施設には、西部出張所、小川西町公民館、小川西町図書館のほか、小平元気村おがわ東にある「市民活動支援センター あすぴあ」、「男女共同参画センター ひらく」の機能を移転し、他に新たな機能としてカフェ、キッズスペース、個人向け貸出スペース、音楽スタジオなども設け、にぎわいの創出等を目指すこととしています。

コンセプトには次の3点を掲げています。

① 多世代の多様な活動が重なり合う

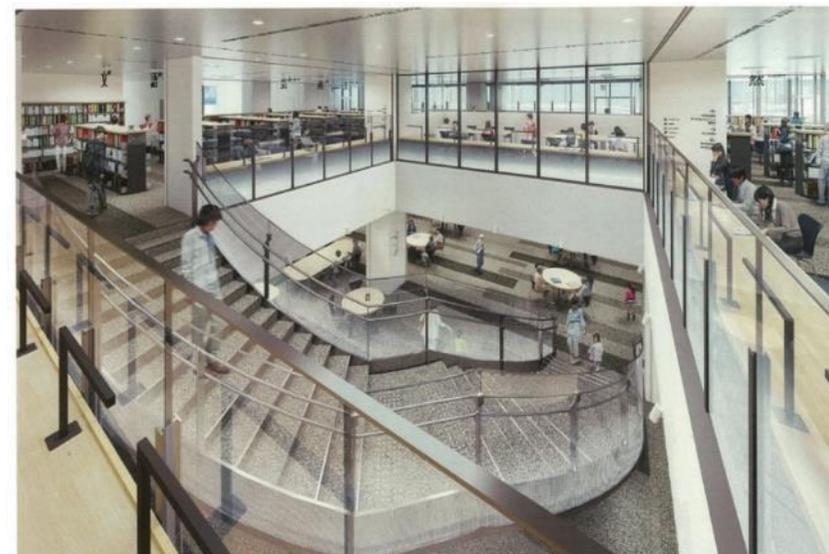
多世代の多様な活動が重なり合い、将来的には統合を目指していくパイロット的な施設と位置づける。それぞれの機能は縦割りに独立したものでなく、一体的な新しい施設となることを目指す。

② 回遊や滞在による、にぎわいの創出

新しいタイプの公共施設へのチャレンジとして、例えば、ビジネスパーソンや学生にとっての利便性向上、大学や企業と連携した公共床の活用など、広場や再開発ビルの1階から3階の商業・業務施設、周辺地域の資源等も含め、回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指す。

③ 本と多様な活動が重なり合う創造空間

4階、5階全体のレイアウトコンセプトを「本と多様な活動が重なり合う創造空間」として、施設全体を本に囲まれた居心地の良い空間とし、生涯学習（公民館、図書館）と市民活動や男女共同参画の推進など多様な活動が重なり合い、相乗効果を生み出すことを目指す。



5階 東口より階層展望（一般書庫）と読書スペース



4階 エントランスよりマダジンカフェをみる

小川駅西口新公共施設_実施設計に基づくイメージパース

新しい小川西町図書館 ～将来の図書館のモデルケース～

自動貸出機・返却機

職員の手を介さず利用者自身で貸出
や返却の手続きができる機械

IC タグ

本の表紙にバーコード共に貼付
自動貸出機などで反応

盗難防止ゲート

貸出処理が未処理の本の IC タグに反
応して、盗難を防止する。

予約ロッカー

予約した本を取り置きするロッカー
職員がいなくても取り出し可能

ブックポスト

常時本の返却ができる投函箱

DX

これらの機器を駆使して、17 時以降はセルフサ
ービスによる貸出や本の閲覧などにサービスを限
定した「夜間開館」を検討中

滞在型の図書館として

- Wi-Fi サービス
- カフェ
- キッズスペース
- 個人向け貸出スペース
- 音楽スタジオ

等を提供

コラム スウェーデンの夜間開館の事例：メル・オペット (Meröppet)

スウェーデンの公立図書館では、2015 年前後から夕方までの通常の開館時間のほかに夜間はス
タッフが不在となるものの館内を利用できる「メル・オペット (Meröppet)」と呼ばれる開館サー
ビスが増えている。スウェーデン語の「メル・オペット」は日本語では「拡大開館」とか「追加開
館」という意味となる。

メル・オペットとは、通常の図書館の開館時間以降にスタッフは不在となるものの、利用者はセ
ルフで館内のリソースを利用できるサービスのことをいう。スウェーデンの公立図書館の多くに
は IC タグやゲートの RFID 技術を活用した図書館管理システムが導入されており、それらを活用
して本サービスが実施されている。

電子図書館が拓く図書館のメリット

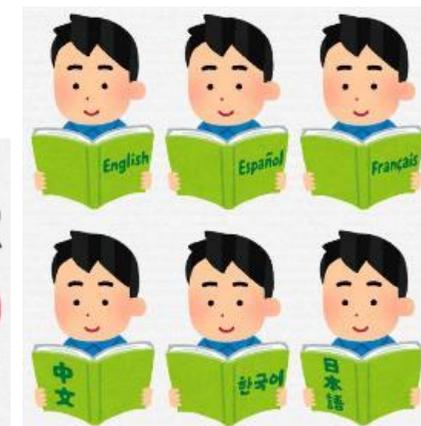
物質的な観点

- 荷物にならない・運ぶ必要がない
- 書架などの場所を取らない
- 前の人が返却したらすぐに読める
- 汚れや破れ、落書きの心配がない
- 図書館に行けない時でも借りられる
- 自動的に返却される・返却忘れない



読書バリアフリー的な観点

- 拡大して読める
- 色を反転して読める
- ハイライトをつけて読める
- 音声読み上げができる
- 外国語を自動翻訳して日本語で読める
- 外国人が日本語図書を自動翻訳して読める
- 声優やナレーターが朗読するオーディオブックもある



様々な利用場面

- ◆ 音声も学べる語学学習本
- ◆ 油や水が飛び跳ねるキッチンでも使えるレシピ本
- ◆ 絶版本や貴重本でも貸出できる
- ◆ 地域の希少な資料も書籍化しやすい
- ◆ 通勤電車の中でオーディオブックを聞く
- ◆ 学校の朝読書で1冊の本をクラスみんなで読む
- ◆ 人に知られたくない病気や悩みの本も借りやすい
- ◆ 旅行先で気軽読めるガイドブックや地図本
- ◆ 海外旅行先で日本の本や雑誌を読む



電子図書館のサービスには様々なメリットがあります。

小平市の図書館では未導入ですが、様々な導入事例やメリットなどを研究してまいります。

他市の新しい図書館

多摩市立中央図書館（令和5年7月開館）

外観	セルフ貸出機	ラーニングcommons	グループ研究室	研究席・個人研究室
<p>外からは図書館の活動が見え、中からはいつも公園のみどりが感じられる。開放感のある広場のような図書館として設計されました。</p> 	<p>利用者自らが簡単に貸出処理を行うことができ、プライバシーも確保できます。</p> 	<p>可動式で自由に組み合わせ可能な座席です。読書や自習からグループ学習まで多様な学びの場として利用できるところです。</p> 	<p>グループ研究用のスペースです。</p> 	<p>1階には個人研究室4室を含む調べものに適したカウンターデスクが約60席あります。</p> 

府中市立中央図書館（令和5年3月リニューアル開館）

館内遠景	インターネット席・データベース席	予約本コーナー	YAルーム	おはなしのへや
<p>ルミエール府中の3階・4階・5階にあります。</p> 	<p>インターネットやデータベースによる調べものができます。</p> 	<p>予約されて貸出準備ができた本を揃えています。ご自身で貸出手続きまで済ませることができます。</p> 	<p>学校案内等の資料を揃え、ヤングアダルト世代のコミュニケーションの場として活用したり、友だちと勉強や調べ学習をする場として使えます。</p> 	<p>おはなし会を行っています。おはなし会以外の時間は、閲覧の場所として自由に使えます。なお、児童室にはカーテンで仕切れる授乳室があり、おむつ交換のできるベッドもあります。</p> 

※ このページは多摩市立図書館及び府中市立図書館の了解を得て掲載しています。